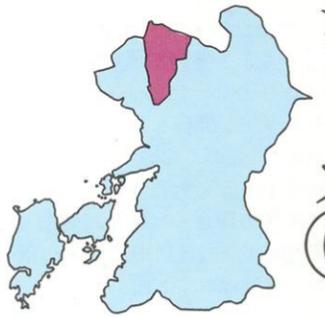


地域の動き

シリーズ⑥

優しさでロマンあふれる文化の里

山鹿・鹿本地域



山鹿・鹿本地域は、本県の北端に位置し、全国的にも貴重な装飾古墳群をはじめ、数多くの歴史・文化遺産があり、美しい渓谷や女性に好評の肌にやさしい温泉などの観光資源にもめぐまれた地域で



山鹿温泉/あし湯

また、県内有数の農業地帯として、質・量ともに日本一のスイカはもちろん、数々の果物や野菜が「夢大地かもと」の統一ブランドにより出荷され、活力ある農業が展開されています。

歴史とロマンに会えるまち

明治四十三年に山鹿市に建てられた芝居小屋・八千代座は、恒例



芝居小屋 八千代座(改修前)

本で数少ない古代山城であり、貴重な遺跡です。現在、城跡の調査・復元作業が進められていますが、数多くの建物あとや土器などが発掘されており、これらの保存活用を図るため、歴史公園として整備する予定です。歴史とロマンに満ちあふれた山鹿・鹿本地域に、またひとつ見どころが増えることとなります。



山鹿・鹿本ふくしまつり(96年10月)

「やさしいまち・鹿本」を目指して

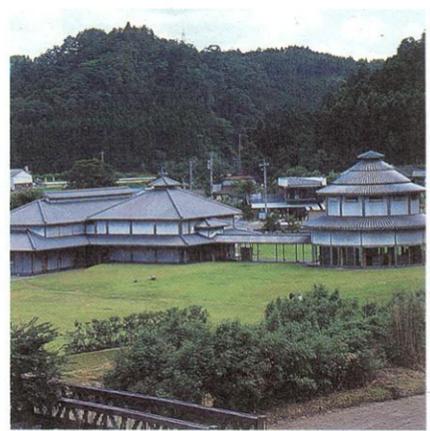
今、山鹿・鹿本地域では、ボランティア、福祉団体、行政が一丸となり、「活力に満ちたやさしいまちづくり」を進めています。この一環として、「街に出ようよ！心と街のバリアフリー」を合言葉に、十月二十六日(日曜日)に山鹿市内の「プラザ5」と山鹿市民会館で、お年寄りや障害のある方々と地域の方々とのふれあいをテーマとしたイベント「ふくしまつり」を開催します。

くまもと物語

熊本の建築文化を未来へ。キーワードは郷土への愛情。

木肌の温もりが伝わるがっしりとした柱。広く長い縁側、しつこいの壁。障子越しに柔らかな光が差し込む和室にはかすかな畳の匂いが漂っている。

少し前の時代まで、どこでも普通に見られた昔ながらの「家」。そこには、快適な暮らしをつくりだしているという先人の思いが凝縮されています。今回は、時代の中で忘れられようとしている熊本の伝統の家づくりや、熊本で生まれた新しい建築プロジェクトなど、「建築と文化」にスポットをあてます。



清和文楽館

昔から伝わる日本の家屋には、素材の性質を生かしたり、自然の力を上手く取り込む工夫が施されています。熊本でもそれぞれの地域で、気候・風土に合わせた家づくりが行われていました。例えば熊本市周辺では、蒸し暑い夏をいかに過ごしやすいかが、家づくりのひとつのポイントになっていました。ひさしを長く、大きく張り出させて、直射日光が室内に入るのを防いだり、窓や出入口を大きく取って、風の通りをよくするなど、さまざまな工夫が見られます。

うとしています。建築技術は時代を追うごとに進歩していますし、建築材料も新しくなっています。なによりも、私たちのライフスタイルが変わったことが家づくりに大きな影響を与えています。私たちの暮らしが全国的に平均化しているように、家づくりも画一化が進み、地域ごとの個性が失われているのです。

それは、現代のライフスタイルのなかでは、地域の風土や文化に根ざした家や建物づくりはできないのでしょうか。県内で一九八八年から進められている「くまもとアートポリス」事業は、建築物により地域の活性化を図り、新しい生活文化を創造しようというもので、その建物の多くは、その土地の歴史、環境、文化などを考慮に入れて設計されています。アートポリスは、地域の風土や文化と建物の関係の、新しい在り方を探る試みといえるでしょう。

県広報案内. 平成11年開催・第54回国民体育大会. 1999. 09 総広 002. FAX 096-13886-12040